
[成果情報名] 雨よけ施設における夏季の若どりレタスの品種選定と出芽促進法

[要約] 雨よけ施設における夏季の若どりレタスとして、「マイヤー」が収量性と食味に優れ有望である。また、「マイヤー」を溝幅 8 cm、深さ 3 cm で溝底播種すると、出芽が促進され収量が向上する。

[キーワード] レタス、品種選定、溝底播種

[担当部署] 福岡農総試・豊前分場・野菜水田作チーム

[連絡先] 0930-23-0163

[対象作目] 野菜

[専門項目] 栽培

[成果分類] 技術改良

[背景・ねらい]

京築地域では、近年、農産物直売所やインショップでの野菜類の販売額が増加している。しかし、夏季においては葉菜類は高温により出芽不良や抽苔により収量・品質が低下するため品目が不足している。一方で、調理の必要がなく柔らかいサラダ用の若どりの野菜は注目されており、レタス類を若どりすることにより、夏季でも抽苔が防止でき生産が安定すると考えられる。

そこで、雨よけ施設を利用した若どり栽培に適するレタスの品種を選定し、夏季の出芽促進技術を確立する。

(要望機関名 : 生産流通課、(H16))

[成果の内容・特徴]

1 . レタスの若どり栽培は、「マイヤー」が 1 株重が 32 g と重く、収量も 194 kg / a と多い。食味評価も優れ有望である。(表 1、写真 1)

2 . 溝幅 8 cm、深さ 3 cm で溝底播種すると、土壤水分が溝底に保持され、晴天日の平均地温が 1.7 程度低下する。播種 3 日後の出芽率は 81.7% と平床播種よりも優れ、初期生育が促進される。(図 1、2、表 2、写真 2)

[成果の活用面・留意点]

1 . 雨よけ施設における 9 月出しのレタスの若どり栽培技術資料として活用できる。

2 . レタスを若どりで収穫する場合、草丈は結球前の 20 cm 程度を目安とする。

3 . 溝底播種の方法は、鎮圧輪を算盤玉状に加工した市販の手押し式播種機を活用する。

[具体的データ]

表1 レタス類の収穫時の生育と食味評価

品 種 名	草丈 cm	葉数 枚	1株重 g	収量 kg/a	食味官能評価	
					甘み	総合
グリーンインパルス	22	7	24	132	0.000	0.000
マイヤー	17	9	32	194	0.643	0.357
菊川7号	21	8	25	125	0.143	-0.071
コスレタス	23	10	25	152	0.214	0.071
リバーグリーン	25	9	25	114	0.429	0.143



写真1 収穫時のレタスの性状

注) 1. 2003年8月1日に直播し9月2日に収穫。

栽植密度8,570株/a。

2. 収量 = 1株重 × 単位面積当たりの収穫株数。
3. 食味官能評価は、生食で標準品種(グリーンインパルス)と比較して - 5 (極端に不良、弱い) から + 5 (極端に良い、強い) までの11段階で評価した。

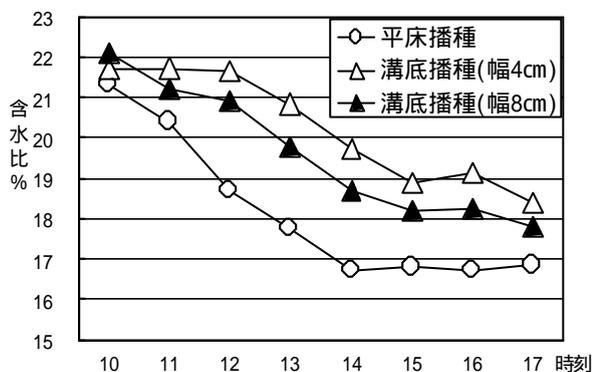


図1 土壌含水比の変化(2004年8月12日)

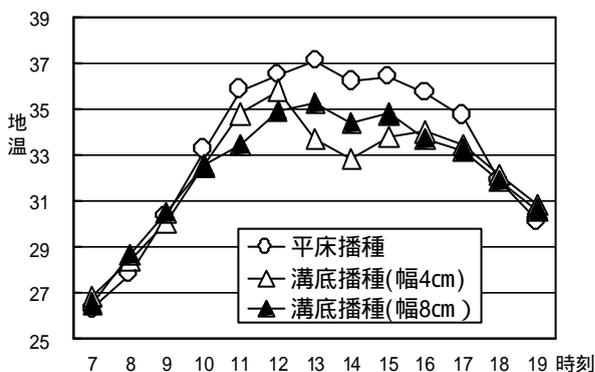


図2 地温の変化(2004年8月12日)

注) 2004年8月4日にマイヤー(パレット種子)を直播

表2 溝底播種の出芽率と収穫時の生育

播種方法	出芽率 %	草丈 cm	葉数 枚	1株重 g	収量 kg/a
溝底播種(幅4cm)	77	20	7	23	94
溝底播種(幅8cm)	82	20	7	25	102

注) 1. 2004年8月4日にマイヤー(パレット種子)を直播し

9月9日に収穫。栽植密度4,285株/a。

2. 出芽率は播種3日後に調査。
3. 収量=1株重 × 単位面積当たりの収穫株数



写真2 溝底播種(幅8cm)

[その他]

研究課題名：簡易施設を利用した若どり野菜の夏季生産技術の確立

予算区分：経常

研究期間：平成16年度(平成15~17年)

研究担当者：田中良幸、林田達也、姫野修一